

●秋の公園でアートさがし散歩

芸術の秋。日中は運動に最適な気候です。散歩で体を動かしながら、公園のアートに触れてみましょう。

●雪華園とジェラテリア

●公園の中心に位置する①雪華園は「乾坤八相の庭」と呼ばれ、人と自然のからみあいから生成される風景を表し、ひいては公園全体を象徴する庭園です。片面がコンクリート、消波ブロックで覆われた「片岡崩しの丘」や、古井戸、家の基礎、屋根瓦にススキなどが生え、荒れた雰囲気を出す「廃墟の荒れ庭」などで構成され、一見すると無造作で、意味がないようにも思えますが、とても計算された空間となっています。雪華園を含む公園の設計監修は、東京工業大学名誉教授である中村良夫先生※によるものです。※風景、土木分野での受賞歴の他、H29年に瑞宝中級章を受章。

①雪華園



②ジェラテリア



●雪華園の南②ジェラテリア。そのガラス張りの建物は、風景と溶け込むようにデザインされており、また鏡のような耐震壁には、景色が幾重にも屈折し、乾坤八相の庭の一景となります。この建物は、建築家妹島和世氏※によって設計されました。

※国内外で多くの建築を手掛ける建築家。西沢立衛氏とのユニット「SANAA」では、建築界のノーベル賞と言われる「プリツカー賞」を受賞。



③天神橋



●何気ない風景にもアートが

●公園と言えば、季節の草花や樹木が目を楽ませてくれますが、広い視点で見てください。昔ながらの自然の中に、③天神橋④展望デッキなど、近代的な建造物があるのが公方公園の特徴の一つです。雪華園の欄でも触れましたが、文明による人間の自然への侵入などを表現しています。「あの橋は自然の風景に合わないのでは？」というご意見もいただくことがありますが、「なるほどそういうことか」とご理解いただければと思います。



④展望デッキ

A.チカラシバ【野草紹介】「チカラシバ」は、A他公園にたくさん生えている雑草で、エノコログサ(猫じゃらし)のオバケのような、大きいブラシ状の穂が特徴です。しっかりした根で引き抜くのに力があることからその名がついています。

●一瞬の絶景アートを切り取る

●この季節ならではの、夕暮れ、日の落ちる方角、空や雲の状態など、条件が合えば絶景に出会えます。スマホカメラの進化で、綺麗な写真が気軽にとれるようになりました。公園の景色をアートとして、皆さん自身が発見、写真に収めるのも楽しいですね。公方公園でいい写真が撮れば、たくさんの「いいね！」間違いなしですよ。

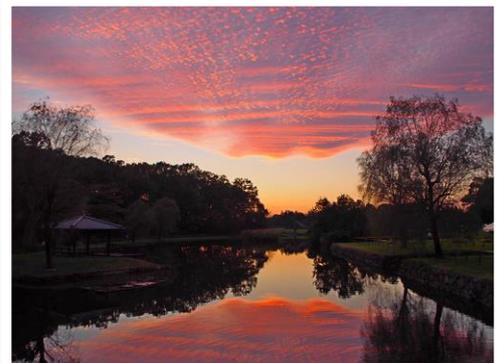
●古河ゆかりの文学にふれる

●明治25年に東京生まれ、古河で育った小説家「若杉鳥子」と、作家・歌人の長塚節がお互いを詠った歌が⑤に2首ずつ刻まれています。二人の切ない物語については、直接歌碑の解説をお読みいただければと思います。※古河市横山町にある、はなももプラザ前にも鳥子の作品「帰郷」の一節を刻んだ「若杉鳥子文学碑」があります。



⑤若杉鳥子 長塚節歌碑

▶平成29年11月1日の夕方17時前後に、管理棟西側で撮影した1枚です。



●実はとってもアートな公方公園。てくてく散策しながら、魅力を再発見してみてください！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索